

ふるさと教育の運用の見直しについて

1 運用見直しの背景

- (1) 子どもたちに、社会で自立して生きる力を育むという理念を実現するためには、少なくとも基礎的な学力を身に付けさせることが必要である。
- (2) しかしながら、全国学力・学習調査の結果を見ると、子どもたちの基礎的な学力がしっかりと身に付いているとは言い難い状況である。
- (3) その要因としては、以下のようなことが考えられる。
 - ① 義務教育において、求められている内容が盛りだくさんであり、子どもたちが、基礎的な学力をしっかりと身に付ける時間的な余裕がないこと
 - ② 教職員が、子どもたちの確かな学力の育成や、学習のつまずきに対応する時間が充分にとれていないこと
- (4) そのため、学習指導要領の見直しを国に提言・要望しているが、その内容が採用されるかどうかは、現時点では不明であり、仮に採用されるとしても、教育現場に反映されるまでには、かなりの時間を要する。
- (5) その間、何もせずに国の対応を待ち続けることはできないため、県として独自に取り組んでいるもので、見直せる余地があるものは見直していく必要があるという考えから、ふるさと教育についても実情に合わせ見直しを図っていく。

2 ふるさと教育とは

- (1) 地域の教育資源（ひと・もの・こと）を活かした教育活動。
- (2) 各教科や総合的な学習の時間において、身近なふるさとの「ひと・もの・こと」を素材として取り上げることで、地域への「愛着・誇り」「貢献意欲」が醸成されるという教育効果がある。
- (3) 地域の教育資源に触れる実感を伴った学びにより、学ぶ楽しさを感じ「確かな学力」を育むことができる。また、地域課題に向き合う中で一歩踏み出す「実行力」を育むことができる。
- (4) 地域住民にとっても、ふるさとへの理解が深まる、地域を担う次世代を育てる、生きがい・やりがいにつながる、住民同士のつながりが生じるなどの効果を生んでいる。

3 現状

(1) 県交付金の交付条件

小中学校の全学年・全学級で年間 35 時間以上実施すること

(2) 学校での活動例

令和 5 年度 ある市の中学校区の平均的な実施内容

(単位：授業時数)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
① 実際に地域へ出かけて体験する。	8	16	21	20	17	13	15	10	24
② 地域の方を講師として学校に招く。	8	5	6	4	5	4	4	10	6
③ 教科学習（国・社・算・理等）の中で、地域のデータ、事柄、事象、人物、自然、歴史などを取り上げる。	23	20	25	24	20	21	8	6	6
④ 総合的な学習の時間に、調べ学習やまとめ、発表等を行う。			14	16	13	10	17	23	16
合 計	39	41	66	64	55	48	44	49	52

(3) 課題

体験活動に係る事務手続きや渉外活動、担当者との打合せ等に、教員が時間を要することがあり、子どもと向き合う時間（個別の学習支援、授業準備、ノート添削、教育相談など）に影響がある。

4 令和 6 年度以降の方針（案）

ふるさと教育の質を担保しつつ、教員が子どもと向き合う時間を確保していく。

(1) ふるさと教育の質の担保について

① 「地域は、子どものたからもの」

教員が一つひとつの活動・授業に丁寧に取り組むことで、子どもたちがふるさと島根を知る、好きになる、理解するだけでなく、将来における自分の役割や立ち位置に思いを馳せる、考えるような「深い学び」のある学習を展開する。

② 「子どもは、地域のたからもの」

子どもたちが、ゆとりのある単元計画の中で、島根らしい「人のつながり・あたたかさ」を感じたり、理解したりし、人への思いやりや相手を敬う気持ち、自分も受け継いでいきたいという思い等を育みながら、次代の地域を築く担い手へと成長していくようにする。

(2) 運用見直しの内容

交付金の交付条件を現在の年間 35 時間以上から約 4 割減らし、年間 20 時間以上とすることで、市町村教育委員会の判断により、活動の見直し・精選を促進していただく。ただし、現在の交付金額は小中学校 1 校あたり 70 千円と少額であり、見直し後も最低限の活動が実施できるようにするため、交付金額は変更しない。

- ① 子どもと向き合う時間の確保について
子どもたちにとって本当に必要な活動を精選し、無理のない教育課程を組むことを可能とし、教員が子どもと向き合う時間を創出していく。
- ② 学校支援について
- ・ 国語や社会などの教科学習の中で地域の「ひと・もの・こと」を取り上げた学習や、総合的な学習の時間に行う体験活動等については、指導主事・社会教育主事が連携して授業支援や活動の精選等を行っていく。
 - ・ 研修等を通して、市町村が配置するコーディネーターや公民館職員等の地域連携に関するスキルアップ、マネジメント能力の向上、ノウハウの蓄積等を図り、教員へのサポート体制を強化していく。
- ③ 小中9年間の体系の点検について
中学校区への交付金を活用し、各中学校区で作成しているふるさと教育の全体計画や一覧表について、活動の重複や学習の深化等の観点から見直しを行い、小中9年間の学年進行を考慮してふるさと教育を推進するよう体系の点検をしていただく。
- ④ その他
- ・ 市町村教育委員会でふるさと教育の内容を点検していただき、活動の重複が整理され、無理なく教育課程を組むことができた結果として、仮に、ふるさと教育の授業時間を年間20時間まで減らすことになったとしても、交付金を交付できるようにする。
 - ・ 反対に、市町村教育委員会の点検の結果、十分に教職員の負担が軽減されている場合には、これまでどおりの教育内容をそのまま行っていただくこともある。

【参考 令和5年度予算】

(単位：千円)

県交付金 (算出基準：市町村 60 千円、中学校区 25 千円、各小中学校 70 千円)	
各小中学校の交付金 70 千円の使用例 ・ A小学校：園芸用品代、田畑借用料、紙代、引率者入館料 等 ・ B中学校：印刷代、輸送費、文具代、郵券代、講師お茶代 等	24,000
ふるさと教育研修（教員対象）	669
ふるさと教育充実費（リーフレット作成、ホームページ充実等）	1,560
合 計	26,229

ふるさと教育リーフレット
「ふるさと教育をきっかけに活躍する若者たち」より

「ふるさと教育」系統的・発展的な取組例

	幼・保	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高校	高校卒業以降		
A 中学校区		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に昔遊びを教えよう。 ・地域の幼稚園・保育園児と交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町探検で、地域の施設や場所を知る。 ・見つけた自然物等で遊びをつくり交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の得意なことや技を教えよう。 ・歴史体験資料館で、地域の昔の暮らしについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業・文化に尽くした人について調べる。 ・地域の自然環境を調べ、守っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業生産を体験し、生産者の工夫を知る。 ・地域のボランティアグループの活動に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考える未来の地域について発信する。 ・未来の地域に向けて、自分たちが取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業調べ等を通して働くことの意義を考える。 ・地域行事の運営に関わり、地域の一人としての役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統芸能（唄、踊り、楽器等）を地域の人から学ぶ。 ・地域行事の運営に関わり、地域の一人としての役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統芸能（唄、踊り、楽器等）を地域の人から学ぶ。 ・地域行事の運営に関わり、地域の一人としての役割を果たす。 	<p>関乃五本松節の後継者育成に貢献したい</p> <p>中学校で出会った関乃五本松節 中学校のふるさと教育で地元で伝わる民謡「関乃五本松節」に出会い、その面白さに惹かれ、すぐに友達と一緒に保存会に入会しました。保存会で高齢者施設を訪問した際、歌を聞いて涙する方がいて、益々のめり込みました。</p> <p>一歩踏み出す力が身についた ふるさと教育のおかげで「関乃五本松節」に出会い、何事にも挑戦することの大切さや、「思う」だけでなく「行動する」力につながったと思います。</p>  <p>小坂 すずさん</p>			
	<p>ふるさと島根を学びの原点に、島根の未来を考え、将来の自分の役割に思いを馳せる</p>													
B 中学校区		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に昔の遊びを教えてもらい一緒に楽しむ。 ・学校周辺で植物の採取などをして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとの地域の様子の変化を見つけに行く。 ・地域の施設を訪ね、働く人の話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の神楽団との交流や体験を通して地域の伝統を守る人の思いに触れ、伝統が残る地域のよさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然環境について調べ、環境保全のためにできることを考え実践する。 ・調べたことや考えたことを地域に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業や漁業について、体験したり、話を聞いたりする。 ・わかったこと、考えたことをまとめ、地域に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産「石見銀山」について学び、関わる人々の思いを知る。 ・自分が考えたこと、感じたことをまとめ、地域に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出身小学校区の自慢を他の小学校出身者に伝える。 ・地域の高齢者福祉の現状について理解を深め、自分にできることを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の乳幼児福祉について体験的に学び、携わる人々の努力や工夫を知る。 ・市の産業や職業について調べ、働くことの意義を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・石見銀山を生かした地域振興を地域の人と一緒に考え実践する。 ・職場体験を通して勤労の意義を考え、進路実現の参考とする。 	<p>子どもと地域の懸け橋になりたい</p> <p>地域の見慣れた風景が財産 ふるさと教育では石見神楽の神楽面や石見銀山といった伝統文化について学習しました。地域にある見慣れた風景や文化がよそにはない特別なものだということを実感しました。</p> <p>地域との関わりから教員の道へ 地域のことを知ったことで、高校時代に中高生の地域貢献グループ「大田JO いんつ♪」の立ち上げに関わり、その活動を通じて地域の方々と触れ合う中でふるさと教育の重要性を認識し、教員の道を選びました。大学の卒論でもふるさと教育をテーマに取り上げ研究を行いました。</p> <p>ふるさと教育を通じて地域を元気に 子どもと地域を繋げることで子どもの世界を広げるとともに、子どもの地域課題に対する発想を地域に還元し、地域を元気づけるような教育活動を展開していきたいです。</p>  <p>幸増 悠佑さん</p>			
	<p>子どもと地域の懸け橋になりたい</p>													
ビジョンより しまね教育魅力化	<p>in</p> <p>地域の中で体験する・浸かる 地域の「中」に全身でどっぷり浸かり、様々な感覚を使って地域を体験すること</p>		<p>about</p> <p>地域について知る・伝える 地域に「ついて」知る、調べる、考える、伝える学びなど、自ら行動すること</p>				<p>with</p> <p>地域と共に未来を描く 地域と「ともに」自分の未来を描き・デザインしていくこと</p>				<p>for</p> <p>地域のために行動・実践する 自分を育ててもらった、自分が暮らしている地域の「ために」、行動、実践すること</p>		<p>toward</p> <p>自分の未来に向かう 自分の未来に「向かって」はばたくこと</p>	
	<p>島根の未来を創る人</p>													